

課題対応取組み報告書

【共通】

名称	此花区地域包括支援センター
提出日	令和 6 年 6 月 21 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☒ 地域や専門職とのつながり等	☐ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	～専門職と地域関係者との連携～高齢者支援考える～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	複合的な課題を抱える人が多くなっており早期に世帯に関わる必要があるが、身近に相談できる人や声をかけてくれる人がいないことから支援困難になってから関わるが増えている。地縁のない高齢者の早期発見が難しい。⇒早期発見・相談の仕組みが充分でない。 家族、本人が支援の必要性を理解しづらく、支援に繋がるまでに時間がかかる 複数の関係者が関わる場合、立場によって考え方や方向性が違うため、支援方針の共有や具体的方策を立てるのに時間がかかり、支援に進みにくい。	
対象	専門職：圏域の居宅介護支援事業所および区内特定事業所 地域関係者：圏域内の民生委員、見守りタイリーダー その他関係者：区役所高齢福祉担当 区社協：見守り相談室、地域支援担当、生活支援コーディネーター	
地域特性	・圏域の面積の半分が集合住宅群。古くからの住宅地も新興住宅への建替えが進み、集合住宅の建替えと合わせ、区内圏域外・区外から転入者多く、地縁のない人が増加している。 ・圏域の高齢化率は29.07%だが、集合住宅群のある地域は、伝法1丁目：42.9%、高見2丁目：36.3%、西島1丁目44.6%と高齢化率が高い傾向である。	
活動目標	区社協内の各部門の課題として地域での見守り活動実践者と専門職の情報共有が円滑にいかないケースが多いことが上がっている。高齢者を支援している地域関係者と専門職が事例を通して、それぞれの立場で支援や関わりを考え、連携して支援ができるようになる。 包括で関わったケースの振り返りをする中で他ケースへの応用や対人援助の質向上、関係者連携のシステムを広めていく機会とする。地域と専門職が連携を取りやすいツール等についても検討していく機会とする。	
活動内容 (具体的取組み)	日 時：令和6年3月12日（火） 14：00～16：00 参加者：17人 (内訳：民生委員：2人、見守りタイリーダー：2人、CM：7人、区役所：1名、見守り相談室：1人、生活支援CO：1名、区包括：3名) テーマ：「～高齢者を地域活動者と専門職が連携して支えていく事例～」 内 容：①参加者の活動内容紹介 ・此花区民生委員児童委員協議会 ・地域見守りタイリーダー ・介護支援専門員 ②事例紹介、及び意見交換 参加者を2グループに分けて、事例について意見交換を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	令和3年より高齢者を支援している地域活動者とケアマネジャーが連携を進めるために交流や意見交換の場として開催。地域関係者と専門職が交流を図り、事例を通してそれぞれの立場から世帯の状況を参加者で共有でき、「世帯支援」の視点をもつことの必要性について考える機会になった。 ※アンケート集計参照	
今後の課題	事例検討会を継続して実施し、一定の成果も得られているが、地域ケア会議から見えてきた課題は経年的に続いているため、今後も事例検討会を継続していく。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和 6 年 7 月 1 9 日 (金)	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☐ 専門性 ☐ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組み継続に向けて、区 地域包括支援センター運営協議会 からの意見等を記載。	・平成30年からの取組みで、当初は専門職だけだったが、令和3年からは地域活動者とケアマネジャーが交流、意見交換の場として、地域からのニーズも取り入れながら、課題解決に向けて取り組んでおり、地域性、継続性、浸透性・拡張性にあてはまる。 ・アンケートからは「世帯支援」の視点を持つことの必要性について考える機会となったかは、わからない。今後アンケート項目の検討を。	